

② マッチング支援

【現状・課題】

- ①東日本大震災や急減な円高の影響に加え、県内製造業最大手企業の事業再編による大量離職など、県内の雇用情勢はますます厳しい状況。
(23年12月の有効求人倍率 鳥取県:0.67 全国:0.71)
- ②企業側は即戦力の人材を求めており、職業経験の少ない又は全くない若年者やスキルの乏しい中高年者に対する求人はますます減少傾向。
- ③鳥取県においては医療・福祉産業従事者の割合が全国平均よりも高く、重要な産業になっている一方で、介護職員などは離職率が高い
⇒ 介護人材等福祉人材の確保を進めるためには、介護分野の魅力を高めることや、マッチング機能の強化が求められている。

【現場の意見】

- ①正規雇用の求人が少ないため、パートやアルバイトなど非正規雇用での勤務につく者が多く、後日再支援が必要となってしまう。
- ②早期に離職する若者の主な理由として、「仕事があわない、つまらない」とか「人間関係のトラブル」があげられる。
- ③医療・福祉人材の確保は依然として厳しい状況。

【雇用創造への展開方向】

- ①きめ細やかな就業支援の実施
(就業支援員等によるマンツーマンでの支援)
- ②県内企業からの求人の確保
(求人開拓員等による県内求人の掘り起こし)
- ③福祉人材バンク・ナースバンク(求人・求職情報と上億・相談)の運営、福祉分野就職フェア 開催などにより、介護・看護職員等のマッチング機能充実

【目標】

- ①若者仕事ぶらざの利用者就職率向上(前年度以上)
- ②ミドル・シニア仕事ぶらざの利用者就職率向上(前年度以上)
- ③全国平均を上回る有効求人倍率の確保
- ④新規学卒者、離転職者を対象とした就業支援の充実
- ⑤医療福祉人材の確保

【目指す姿】

- 県民が安心して働くことができる雇用情勢の維持
- 医療・福祉サービスの安定供給

【主な事業】[※④:24年度予算額、③:23年度予算額、単位:百万円]

- ①若年者就業支援事業【継続】[④63 ③63]
・若者仕事ぶらざの管理・運営、若年者就業支援員の配置、就業支援策の実施
- ②中高年者就業支援事業【継続】[④44 ③29]
・ミドル・シニア仕事ぶらざの管理・運営、就業支援員等の配置、特別相談窓口の設置
- ③福祉人材センター運営事業、福祉・介護人材就労支援事業【継続】[④50 ③55]
・福祉人材バンクの運営 ・福祉の就職フェアの開催
- ④ナースセンター事業【継続】[④16 ③16]【再掲】
・ナースバンクの運営 ・潜在看護師研修・再就業支援

きめ細やかな就業支援

雇用創造1万人プロジェクト

